

## 前沢区内肥育農家の 全国肉用牛枝肉共励会での受賞歴

- 昭和58年 雌の部最優秀賞 鈴木 民雄 氏
- 昭和61年 名誉賞・農林水産大臣賞 及川 梅男 氏
- 昭和62年 名誉賞・農林水産大臣賞 石川 正 氏
- 昭和63年 雌の部最優秀賞 及川 梅男 氏
- 平成2年 名誉賞・農林水産大臣賞 小形 進 氏
- 雌の部最優秀賞 及川 梅男 氏
- 平成3年 名誉賞・農林水産大臣賞 阿部 篤四 氏
- 平成4年 名誉賞・農林水産大臣賞 安部 慶喜 氏
- 平成5年 名誉賞・農林水産大臣賞 及川 主 氏
- 雌の部最優秀賞 鈴木 松雄 氏
- 平成19年 雌の部最優秀賞 後藤 久次 氏
- 平成22年 名誉賞・農林水産大臣賞 阿部 育男 氏



燦然と輝く受賞者たちの賞状とトロフィー

### 全国大会で名誉賞を受賞

こうした取り組みによって、一時落ち込んだ上物率は、徐々に回復し

育農家と連携して「肥育農家が望む血統の子牛を生産する」という体制を取るようになります。江刺市和牛改良組合（現胆江和牛改良協会）の名牛「和人号」「恒徳号」「菊谷号」が交配され、子牛銘柄の「陸中牛」として産地化が図られました。中でも昭和57年に導入された「菊谷号」は、その優れた資質を発揮し、他産地との格差が顕著に見られるようになりまし

ていきます。そのころの肉牛部会全員の願いは「全国の共進会でトップを獲得する」こと。会員が一丸となって挑戦し続けた結果、昭和61年には、最高峰となる全国肉用牛枝肉共励会で及川梅男さんが悲願の名誉賞を獲得します。翌年も石川正さんが獲得するなど、次々と輝かしい実績を挙げていきました。こうした活躍のおかげで、全国放送のテレビ番組で前沢牛が取り上げられるようになり、全国的に知名度が高まってきました。生産者たちが、挫折を味わいながらも信念を持って取り組んできたことが、ついに花開いたのです。

## 地元之恩恵をもたらした名誉賞 今後の発展にも大きな期待



岩手ふるさと農業協同組合  
前沢地域センター営農経済課  
審議役 後藤 孝助 さん

最も権威がある全国肉用牛枝肉共励会で名誉賞をもらうのは、とても難しいことです。今回、阿部さんの育てた牛が見事に栄誉に輝きました。ご本人の努力が一番大きいのはもちろんですが、たくさんの方の牛の中から見いだした畜産推進員の目利きもすごいと思います。また、それらを後押しする部会、関係機関なども一体となって取り組んだ成果だといえます。ことは、農協が東京に出荷を始めてから40年目に当たります。節目の年に、最高の結果が生まれたことは本当に喜ばしいことです。しかも受賞した牛の父は、江刺の種牛「菊福秀」です。同じく江刺の種牛「来待招福」を父に持つ牛

も、今回の共励会で良い成績を残し、大きく名を上げました。松阪牛などの銘柄牛は、県外から優秀な子牛を購入し、肥育します。一方、前沢牛は、胆江管内で生産された牛を育てる「地域内一貫生産体制」を確立してきました。11月に江刺区で開かれた和牛子牛市場では、前年の同月と比較して、平均で6万7,897円も高い価格で子牛が取り引きされました。共励会で受賞したことが、地元の繁殖農家にも、良い影響をもたらしています。これからも2頭の種牛には活躍を期待していますし、その血統に合った飼養体系が生産者の間で定着してほしいと思います。

Interview

### 推進員の委嘱と談話室の開設

農協では新たに、地区のリーダー的存在の生産者を畜産推進員として委嘱し、身に付けた知識や技術をほかの生産者に伝える制度を始めました。各農家の棚卸し（資産評価）をして経営に問題がないか点検するほか、農家通信簿を作成し、生産者の肥育技術の順位付けをして、競争意

### 地域内一貫生産の仕組み

前沢牛は地元産の子牛を肥育していたため、出荷が軌道に乗ったことで、子牛も買い支えられるようになりました。そのため繁殖農家は、肥

育農家と連携して「肥育農家が望む血統の子牛を生産する」という体制を取るようになります。江刺市和牛改良組合（現胆江和牛改良協会）の名牛「和人号」「恒徳号」「菊谷号」が交配され、子牛銘柄の「陸中牛」として産地化が図られました。中でも昭和57年に導入された「菊谷号」は、その優れた資質を発揮し、他産地との格差が顕著に見られるようになりまし

識をありがとうございました。昭和53年には「出荷に来た生産者をそのまま帰すのはもったいない」という発想から、出荷施設の隣に談話室を設けました。農協では、気軽に雑談してもらえよう、談話室にお茶菓子を用意。その代金は1年間で牛1頭分にもなりませんが、年間80回から100回、延べ1000人以上の生産者が意見交換をしたことになり、下手な指導会より、多くの課題を解決したといわれています。



地域内で一環して生産される前沢牛

前沢は、ほかと比べて生産者同士の交流や情報交換が盛んです。最近、種牛の数が多くなり、さまざまな血統の子牛が出回ってきました。子牛を購入して肥育し、結果が出るまでには2年かかります。購入した生産者から生の情報を聞いて判断しないと、先を見据えた子牛の導入はできません。良い牛を育てるためには、みんなで情報を共有しなければ駄目です。「自分だけもうかればいい」という意識では、地域はまとまりませんし、レベルも上がっていきません。そういう点で、出荷所の談話室はいい交流の場になっています。雑談のような茶のみ話の中から、思わぬヒントが出ることも実

際にあります。支部の分会や団体ごとに開催している枝肉研究会では、みんなで東京市場に行って、自分が出荷した牛の評価を買参人から聞いたり、競り後の講評を聞いたりしています。こうした客観的な意見を知ることができる独自の活動も、良い牛を育てていく上で、大きな効果を発揮しています。今回、前沢牛が17年ぶりに名誉賞を獲りましたが、全国のレベルは年々上がっています。常に上へ向かっていかないと、あっという間に追い越されるでしょう。そうならないよう、人とも牛とも真剣に向き合い、前沢牛ブランドを高めていきたいと思っています。



岩手ふるさと農業協同組合  
肉牛部会 部会長  
肉牛部会前沢支部 支部長  
鈴木 松雄 さん

## 一体となって研さんを重ね 前沢牛ブランドをさらなる高みへ